

# 産業・労働経済

石橋孝次研究会

# 石橋孝次研究会

— (マイクロ経済学・産業組織) —

## 1. 研究分野

本研究会ではマイクロ経済学を軸として、企業と市場の経済学である産業組織の研究を行う。

市場メカニズムの機能は厚生経済学の第1基本定理に集約されるが、同時に限界もあることはよく知られている。現実の経済は純粋な完全競争市場ではなく、何の施策もなければ機能不全に陥るのが常である。経済が健全に機能するには、政府が適切に介入を行うことも必要だし、組織や制度による資源配分が市場を補完することも必要である。私の主な関心は、現実の多くの企業は少なからず市場支配力をもつこと、また現実の経済活動はほぼ例外なく不完全もしくは非対称な情報の下で行われることを念頭において、市場メカニズムの限界と是正策を明らかにすることにある。この目的のためには、他の経済学の分野と同様、理論分析と実証分析の両方が必要になる。理論は経済問題を理解し解決策を探るためにあるという意味で、現実の経済問題との接点を見失った理論は健全ではないし、他方理論を軽視した実証分析も同様に健全ではないと考えている。

産業組織 (Industrial Organization) とは、不完全競争市場での企業行動の分析や需要の分析を通じて社会的に望ましい競争政策のあり方を考察する学問である。それと同時に、ビジネススクールなどに設置されて

いる経営戦略論の基礎となっている学問でもある。より具体的に言えば、独占企業や寡占企業の価格戦略・品質や広告などの製品差別化行動・イノベーションと技術革新・企業の合併や統合・参入阻止などの問題について、マイクロ経済学に基づいた分析を行う分野である。また産業組織で主役となる主体は企業であり、企業の経営・組織・財務を考察する広い意味での企業理論は産業組織と密接に関わっている。本研究会では、マイクロ経済学と計量経済学を分析用具としながら、企業理論を含んだ産業組織の理論・実証研究を行う。

本ゼミ活動では、第1に分析ツールとしてゲーム理論・契約理論・行動経済学を学び、第2にゼミの研究分野である産業組織に関する文献を学習する。そして第3に、3年生と4年生がそれぞれ個別の研究テーマに関する発表を行う。英語は重要な言語であり社会に出ても絶対に必要なので、教材としては英語文献を扱うことが多い。春学期はテキストによる基礎的学習にウェイトをおき、秋学期には研究書や専門的な学術論文を用いる。またプレゼンテーションのスキルの養成はゼミ活動の重要な目的の1つであり、通常の授業は学生によるパワーポイントを用いたプレゼンテーションに基づいて行う。

本ゼミでは理論分析を主とするが、実証分析に必要な計量経済学を学ぶためにサブゼミを設置する。またゼミ活動を円滑に遂行

する上で必要な基礎知識の補充を行うため、私が担当する三田の授業の他にいくつかの授業を履修することを求める。その他に3年生は、パートゼミで個別研究および共同研究を行う。4年生には相応の覚悟で卒業論文の作成に臨んでもらう。これは研究会活動の最終目的であり、学生生活において自らを鍛錬する最後の機会である。本研究会の卒業論文では、産業組織またはそれに関連する分野から具体的な問題を取り上げて理論分析および実証分析を行うことが求められる。卒業論文に取り組むためには分析能力を習得することだけでなく、普段のゼミ活動を通じて適切な問題意識を養っておくことが必要である。

## 2. 学生への要望

本研究会の趣旨を理解し、三田で充実した学生生活を送ることを望む諸君の入会を期待している。日吉ではミクロ経済学・マクロ経済学・数学・統計学・英語をできるだけ十分に学習しておいてもらいたい。これは三田の授業やゼミでの学習にとって必要であるだけでなく、社会に出てからも非常に有用な知識になるからである。

## 3. 選考について

### 1 募集人数

15 名程度

### 2 選考内容

筆記試験(ミクロ経済学；持込不可)および面接

### 3 他学部入ゼミ： 不可

PEARL 生受入れの可否： 不可

## 4 選考基準

筆記試験(90%程度)・面接(10%程度)。日吉での成績は問わない。

## 制度政策

寺井公子研究会

山田篤裕研究会

# 寺井公子研究会

— (公共経済学・財政学・政治経済学) —

## 1. 研究分野

公共経済学は、政府の経済活動を分析対象とする学問です。市場メカニズムだけでは解決できない問題—たとえば、外部性の発生、経済主体間の情報の非対称性、機会や結果の不平等—について、政府がどのような対応をするのが望ましいかを考えます。

実際、政府は課税、公共事業、退職年金・医療保険・介護保険などの社会保険の提供、生活保護制度による国民の生活水準の保障、規制など、様々な手段を用いて経済政策を行っています。政策は個人や企業の意思決定に影響を及ぼしますし、所得や資産の分布を左右します。現行の制度や政策がどのような役割を担っており、どのような効果を生み出しているか、何が問題か、を考察することは、とても重要なことだと考えます。そのうえで、人々を経済的により幸せにする政策のありかた—たとえば、保育サービスの拡充と給付金では、育児支援としてどちらが効果的か、オリンピック施設の建設費用は誰が負担するべきか、市町村合併で行政費用を節約できるか、増税すべきか、あるいは国債発行で財源調達をしたほうがよいのか—を探究するのも、公共経済学に期待される役割です。

一方、政治経済学は、政治的要因が政策の選択・実行に、どのような影響を与えているのかに注目します。特に、選挙、議会などの

政治制度が、政治家、官僚、利益団体、有権者の行動にどのような影響を与えるかについて、経済学の分析手法を用いて考察します。望ましい政策の実施を妨げている要因について考えることも、同様に重要なことだと考えます。私自身は、日本の財政再建を進めるためにはどのような制度改革が必要か、また人口高齢化が政府投資と再分配にどのような影響を与えるかに特に関心を持って、ゲーム理論を応用しながら、研究を進めています。

## 2. 学生への要望

研究分野の性格から、理論と現実の双方に関心を持っていることが非常に重要だと考えています。現実の経済で起こっている様々な問題の本質的な原因は何かを、つねに考える姿勢が重要だと思いますし、一方で、現実の部分、部分を観察しているだけでは、経済の大きな流れや、望ましい経済のあり方を見失うこともあります。このような考えに立って、基本的理論の学習・理解と、データを読み、扱えることの双方にウエイトをおいて、研究会の活動を進めていきます。

特に、ミクロ経済学と統計の基礎的知識を習得していることを前提とします。経済政策について豊富な知識を持っている必要はありませんが、関心と学ぶ意欲を持ち、かつ意欲を持続できる人、根気強く文献を読み、自分で考えることのできる人、またゼミは集団で学習する場ですので、積極的に活

動に参加することで他のメンバーに良い刺激を与えることのできる人の応募を期待しています。

### 3. 選考について

#### 1 募集人数

16 名以内

#### 2 選考内容

##### (a)小論文

テーマ:「書籍、学術論文、あるいは新聞記事から、我が国の経済政策・公共政策に関して書かれた論述文を一つ取り上げ、それについて議論しなさい」字数:3000~4000 字

○取り上げた論述文の出典(タイトル、著者名、発行年月(日)等)を明記すること

##### (b) 面接

##### (c) 1・2 年次の成績

3 他学部入ゼミ: 可

PEARL 生受入れの可否: 可(ただし、研究会での使用言語は日本語です)

### 4 選考基準

選考内容(a)~(c)のそれぞれについて、特に次の点を重視します

(a): 文章力、議論が論理的・具体的か、文献をよく読み、深く考察しているか

(b): 関心、意欲

(c): 参考程度(ミクロ・マクロ・統計)

# 山田篤裕研究会

— (社会政策論：社会保障と労働政策) —

## 1. 研究分野

社会問題を取り除き、人々の生活をより善くすること—その手段が社会政策です。「社会が生み出す病にたいする処方箋」とも言えます。人々の一生に関わる、最も歴史ある研究分野の一つです。

社会政策は社会保障と労働政策の2つに大別できます。

社会保障には、年金保険、医療保険、雇用保険、介護保険、労災保険などの社会保険や生活保護、児童福祉、障害者福祉などがあります。

労働政策には、最低賃金、労働基準、労働安全衛生、男女雇用機会均等、同一労働同一賃金、育児・介護休業に関する各種規制、職業訓練や職業紹介などのサービスがあります。

社会問題を現行の社会政策がどれほど解決しているのか、人々の生活をより善くするため社会政策をどう改革すべきか研究しています。

## 2. 学生への要望

ゼミでの学びを将来活かしたい学生(研究者、公務員、ジャーナリストなど)から、たんに社会問題に関心がある、という学生まで広く歓迎します。

研究の方法自体は落ちこぼれを出さない

よう一から手ほどきしますが、①社会問題への強い関心と、②幅広い文献の読み込み・データ分析のため根気が求められます。

教員の専門性については CiNii でも検索・確認してください。

## 3. 選考について

### 1 募集人数

15~20名

### 2 選考内容

(a)レポート、(b)成績表、(c)レポート・願書に関する教員面接

### 3 他学部入ゼミ：可(入ゼミ許可者への必読図書あり)

PEARL 生受入れの可否：可

## 4 選考基準

レポート、面接、成績表に基づく総合判断

# 経済学史・思想史

川俣雅弘研究会

# 川俣雅弘研究会

— (経済学史) —

## 1. 研究分野

一般均衡理論と厚生経済学の理論史を中心に研究しています。ゼミでは経済理論の習得を希望する学生が多いので、例年、一般均衡理論、厚生経済学、社会的選択理論の理論展開を歴史的に追跡できる教材を利用して、それらの基礎理論と理論の展開を学び、その発展として各自が関心のあるテーマを選び、それに沿って研究を進めています。

## 2. 学生への要望

ゼミの研究テーマに関心をもち、自主的に研究すること、ゼミの運営にかかわる仕事を積極的に分担することを期待します。

## 3. 選考について

1 募集人数 約 20 名

2 選考内容 ミクロ経済学と英語の筆記試験と面接を行います。面接では、筆記試験の答案について解説してもらいます。過去問のサンプルと基本的知識にかんする資料は授業支援システムで、研究会の資料として塾内公開しています。

3 他学部入ゼミ：試験に合格すれば、受け入れます。

PEARL 生受入れの可否：ゼミは日本語で行われますので、言語に支障がなければ受け入れます。

## 4 選考基準

例年、3年生のゼミでフェルドマン＝セラノ『社会的選択理論と厚生経済学』シーエーピー出版の輪読を通して一般均衡理論、厚生経済学、社会的選択理論の理論と歴史を学んでいます。この本を読むためにはミクロ経済学の基礎が必要です。入ゼミ試験では、英語がある程度できること、私有経済の完全競争均衡と非協力ゲームのナッシュ均衡の基本的考え方を正確に理解していることを確認します。

# 經濟思想史

壽里竜研究会

# 壽里竜研究会

—社会思想・社会思想史—

## 1. 研究分野

本研究会の研究分野を知ってもらうために、担当教員の専門的な関心について説明しておこう。私の専門は18世紀ヨーロッパの社会思想史であり、主な研究対象はデイヴィッド・ヒュームやジャン=ジャック・ルソーなどである。ヒュームは経済学の祖と言われるアダム・スミスの親友でもあり、経済学的な著作も残しているが、同時に哲学者（倫理学も含む）・歴史家としても知られている。また、ルソーは、経済学史に個別の貢献をしたわけではないが、文明批判という形で商業活動を中心的な原理とする近代社会そのものを批判した思想家であった。いずれも特定の学問の名前を冠した「○○学者・思想家」と限定されない点に特徴がある。

本研究会では、経済(学)的な領域と他領域(哲学・政治・法・倫理)との関連を視野に入れつつ、広い意味での哲学——政治哲学と経済思想・倫理——における様々な「主義・思想」について学んでいく。本研究会の守備範囲を知るための一つの手がかりとして、春学期に輪読予定のマイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう：いまを生き延びるための哲学』(鬼澤忍訳、ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2010年)を参照してもらいたい。本研究会での活動を通じて、一見すると経済学とは関係のなさそうに見える諸問題も、私たちが目指す社会のあり方とは切っても切れない関係にあること、経済学的思考の適用範

囲の広さと限界とを学んでもらいたい。

研究会の進め方については、代表的な思想的立場(功利主義、リベラリズム、リバタリアニズムなど)を扱った本をテキストとし、

輪読・ディスカッションを中心とする。

2. 学生への要望 本研究会で扱うテキストに数式は出てこないが、思想という抽象的な内容を理解・駆使する能力と、多分野にわたる幅広い知識が必要となってくる。「数学が苦手だから」という消極的な理由での応募は勧めない。ふだんから本を読む習慣を身につけていること、幅広い関心を持っていることが求められる。

遅刻・欠席、議論への不参加、提出物の遅延・未提出は、成績評価・単位取得に著しく影響する。予習・復習もせず、研究会の最中、黙って座っているだけで単位がくることはない。ゼミ生間の人間関係について、サークル的な親しさは求めている。むしろ、一個人として、相手との間に個人的な親しさがなくても、自分の意見を伝えられる公共性こそが必要である。

サブゼミなどの活動はおこなっていないが、これは、通常のゼミでの報告・レポート作成の準備などに相応の時間を要するためである。学期末レポートでは約半数が書き直し・再提出となり、卒業論文については第四～六稿にいたるのが通例である(いずれも事前にアウトラインの提出を義務づけており、アウトライン

の段階で複数回の書き直しをしているにもかかわらず、である)。

3. 選考について

1 募集人数：AB 日程あわせて 10 名程度

(PEARL 生若干名を含む。ただし、A 日程で募集人数が埋まれば B 日程はおこなわない)。

2 選考内容：筆記試験と面接（詳細については、別途、指示する）。

3 他入学ゼミ：可

PEARL 生受け入れの可否：可

4 選考基準：筆記試験では読解力、面接では普段からの読書・問題関心について問う。

# 經濟地理

河端瑞貴研究会

# 河端瑞貴研究会

—地理情報科学(GIS), 経済地理, 都市地域政策—

## 1. 研究分野

「空間」を切り口に、現実の都市・地域の経済・政策課題を分析します。分析には、地理情報システム(GIS)を活用します。GISを用いると、空間情報を可視化、加工・作成、分析できます。特に 2000 年代後半から、国内外の経済・政策分析における GIS の活用が増大しています(図 1)。その背景には、GIS 機能の発達のみならず、GIS で利用可能な空間データが爆発的に増えていることがあります。環境、交通、産業、住宅、防災など、都市・地域が抱える経済・政策課題には、都市・地域の空間構造と密接に関わるものが少なくありません。発達著しい GIS と空間データを活用すれば、そうした課題の理解や解決に有益な知見を提供できると期待できます。

## 2. 学生への要望

都市・地域の「空間」に関わる経済・政策課題に興味があり、GIS と(空間)統計手法を用いて分析してみたい学生を歓迎します。出席重視のため、欠席が多く見込まれる場合は入ゼミをご遠慮ください。

## 3. 選考について

1 募集人数 約 15 名

2 選考内容

1 次試験：筆記試験（統計学、ミクロ経済学（教科書持込可、電子機器持込不可））。

2 次試験：面接試験（1 次試験合格者対象）。試験当日、成績表持参（1・2 年）〔学籍番号・氏名を記載した keio.jp 印刷物可〕

3 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：基本的な日本語を理解できれば可

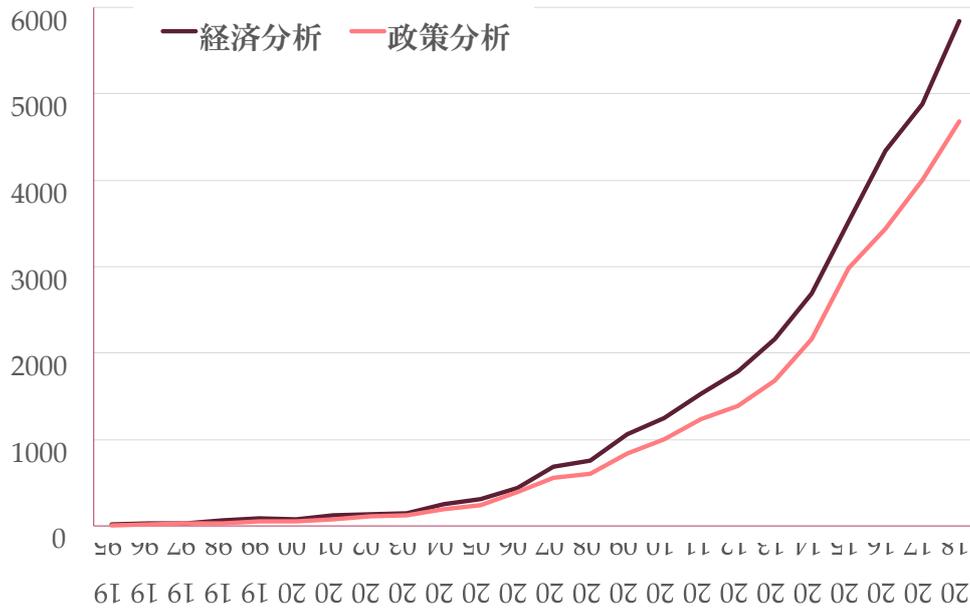
## 4 選考基準

願書、筆記試験、面接で選考します。成績は必要に応じて参考にします。入ゼミの最新情報については、研究会のホームページと Twitter をご確認ください。

<https://sites.google.com/keio.jp/mizuki-seminar/>

[https://twitter.com/kwbt\\_seminar](https://twitter.com/kwbt_seminar)

（被引用数）



注) Web of Science を用いてトピック「gis economic\* analysis」、「gis policy analysis」で検索した結果(2019年9月11日現在)

図 1 経済・政策分析：GIS 活用の普及

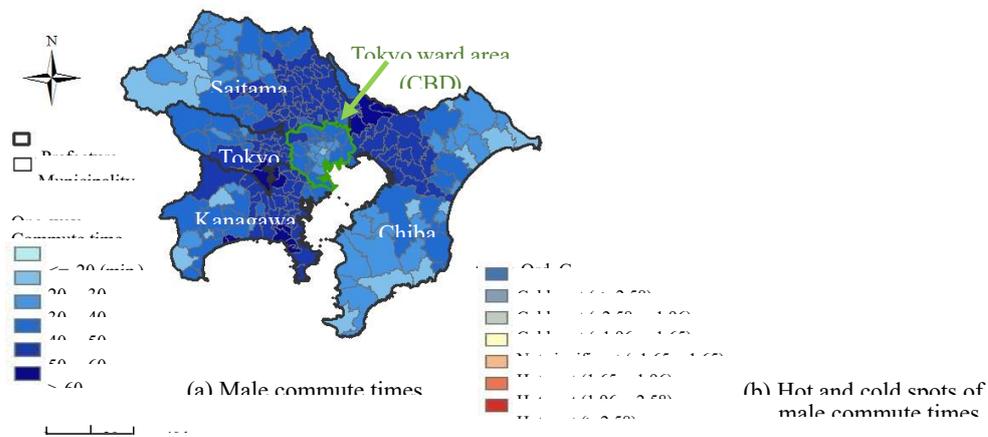
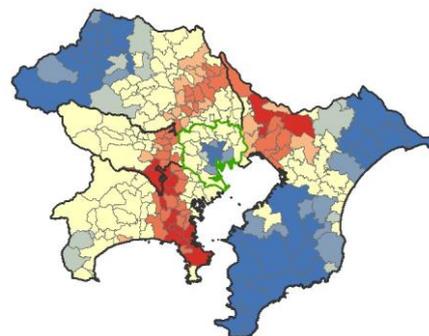


図 2 GIS 活用例：東京圏の通勤時間のホット/コールドスポット



ット

# 開発経済学

大平哲研究会

山田浩之研究会

# 大平研究会

— (開発経済学・地域経済学) —

## 1. 研究分野

大平研究会では、国内外の地域経済に関する諸問題について勉強しています。具体的な地域を取りあげ、その経済の動きを理解するための経済学の手法を学習することが研究会の主な活動目的です。

開発経済学の理論の考え方を確認するように努力しています。具体的な経済分析では、基礎にある理論の考え方の理解よりも、分析者にとって都合の良い結論をはやく出すことが優先されがちです。しかし、どのような理念に基づいて作られたものなのかをきちんと理解しなければ分析の内容が希薄になります。都道府県庁や援助機関が実際につかっている研究報告書を正確に読む能力を身につけることが目標ですが、その基礎にある経済学の考え方を確認することに時間をかけます。

ものごとを見る基本的な視点を身につけることこそが大学での学習での眼目です。経済学の考え方を基礎にしながら地域経済を理解することを本研究会では重視します。その際必要があれば、現地にいた人に会うことや、対象地域に行くことも推奨しています。

実際の研究会活動は本ゼミとサブゼミとにわかれます。今年度の本ゼミでは、三田祭論文の参考文献について理解を深める輪読、三田祭論文の中間発表、フィールドワークの聞き取り練習などをおこなっています。

サブゼミでは、学生が自主的に選択した三田祭論文のテーマについて議論を深めています。その際、可能な限り実際の現場を見るようにしています。文献調査でわかったつもりになっても、実際の現場を訪問し関係者の話を聞くと、理解が深まるものです。

## 2. 学生への要望

入ゼミ時点での経済学の理解度はそれほど高度なものを要求しません。大事なのは、マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、どれでも物怖じせず理解しようとする姿勢と、そのための基礎学力です。数式展開をはじめとする理論操作の能力よりも、理論の考え方を理解しようとする学生が集まることを望んでいます。

また本研究会では、国内、国外のバランス、理論と実際のバランス、等々、さまざまな面でのバランスと多様性を大事にしています。

## 3. 選考について

### 1 募集人数

15 名程度

### 2 選考内容 未定昨年度の例:

(1)今すぐ三田祭論文を書くことを想定した研究計画書の作成

(2)面接と成績表の提出

### 3 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：可

#### 4 選考基準

非公開です。

# 山田浩之研究会

—開発経済学・経済発展論—

## 1. 研究分野

私の研究分野は広く言うと経済発展論、とりわけ開発経済学です。開発経済学は開発途上国や新興国が直面する様々な課題を扱う研究分野です。よって、計量経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学を基礎にし、応用分野からの必要な知識をも総動員して課題に取り組む必要があります。私自身のこれまでの研究も、為替制度に関する国際金融分野のものから開発途上国の現地医療従事者の働くインセンティブまで、多岐に渡っています。

また、開発経済学分野からノーベル経済学賞受賞者が 2015 年、2019 年に出ており、研究分野としても経済学の中心且つ最先端であると言えるでしょう。

これらを踏まえ、本研究会では主にアジア・アフリカを中心とした新興国・開発途上国の経済問題についての知識及び分析能力の習得に主眼を置く予定です。とりわけ、関心分野のトピックの分析を行えるようなデータ分析の能力を磨きます。さらに論理的思考能力・文章執筆能力・プレゼン能力を養うために、グループに分かれての論文の執筆とチームに分かれてのディベートを開催する予定です。また、学生の希望と主体性を重んじた上で、可能であれば海外合宿もしくは学生自身で実施するスタディーツアーも検討します。

私自身が、「自分が学部時代にこんな研究会があったら良かったなあ…」という研究会にしたいと考えています。ただし、あくまでゼミ生の自主性を尊重したいと考えています。また、青年海外協力隊や、海外留学、国際機関での経験の話なども(もし聞かれたら)ゼミ生とはしたいと思っています。今回で 6 回目の募集となりますが、5 期生までのゼミ生は自主性を大いに発揮し、私の予想を上回るパフォーマンスを見せてくれています。

将来国際機関で働きたい人や国際的な仕事をしたい人、開発経済・国際経済の研究者を目指す人向けの研究会を念頭に置いています。日本の将来を真剣に考えたいという人も歓迎します。

## 2. 学生への要望

開発経済学に興味を持たれる学生さんのきっかけ・動機は様々だと思いますし、大きな心意気をもってゼミを志望してくれることは素晴らしいと思います。ただし、そういった心意気だけで通用するほど世の中は甘くありません。心意気の土台となる様々な能力をこの研究会を通して身に付けて行って欲しいと思います。ゼミの活動は日が経つにつれて本格化し、時間を惜しみなく注ぎ、レベルも上がります。強い問題意識と、ゼミに積極的に参加・貢献したい学生のみを求めます。「緩いゼミ」や「楽勝ゼミ」ではないので、やる気が続かない人の応募は

お勧めしません。また、貧困に苦しんでいる方たちの現状といった現実と直結している問題等を扱うため、真摯な態度と冷静に物事を考える姿勢が求められます。

最後に、日吉のミクロ・マクロ・統計といった基礎的な科目をしっかり履修し、取りこぼさないようにして下さい。これらはゼミで学ぶ内容の土台となるだけでなく、再履修のために日吉に通うことになると、本ゼミ以外での活動に支障をきたし他のゼミ員に迷惑がかかる可能性があるからです。

### 3. 選考について

1 募集人数 約 10 名 2 選考内容 レポート、成績、教授面接、学生面接 3 他学部入ゼミ：4月から参加可能であれば応募可です。PEARL 生受入れの可否：現時点では受け入れていません。

### 4 選考基準

レポート、志望動機、成績、面接による総合評価